

バイオビジネス経営学特論演習Ⅱ (2単位)

担当者氏名 門間敏幸・渋谷往男・鈴木源太郎

◆学習・教育目標

バイオビジネス経営学の基礎となる理論の実証方法、調査方法を自ら考え出す力を養成する。特に、バイオビジネス経営学特論演習Ⅱでは、バイオビジネス経営学特論Ⅱで学んだ、①バイオビジネスと環境問題、②バイオビジネスと情報、③技術経営(MOT)、④バイオビジネスの組織管理、組織間関係、⑤行動科学的経営管理論、⑥コンティンジェンシー理論、の実証方法、調査方法について、担当教員との論議を中心に演習形式で修得する。

◆取り扱う領域(キーワードで記載)

経営調査 環境保全型農業 情報のマネジメント バランススコアカード
組織のネットワーク分析 経営管理評価 組織の環境対応

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	環境保全型農業の実証・調査方法(第1～第3週)	・環境保全型農業の実証・調査方法を修得する。	本授業のねらいは、バイオビジネス経営学の理論の妥当性を実証するための方法、事例経営の調査方法を大学院生自らが発見して修得出来るように、教員と学生、学生相互の論議を重視する。特に準備すべき事項はないが、常に自らの考え方を整理して発表できるようにすることが大切である。
2	経営における情報マネジメントの実証・調査方法(第4～5週)	・バイオビジネスにおける情報マネジメントを評価するための実証・調査方法を修得する。	
3	MOT理論の実証・調査方法(第6～7週)	・バランススコアカードの方法を用いて技術経営を評価するための方法、事例分析の方法を修得する。	
4	経営組織およびネットワーク型農業経営組織の実証・調査方法(第8～10週)	・経営組織およびネットワーク型農業経営組織の実証・調査方法を修得する。	
5	経営管理理論の実証・調査方法(第11～13週)	・行動科学的な視点から経営管理を実証・調査するための方法を修得する。	
6	コンティンジェンシー理論の実証・調査方法(第14～15週)	・経営環境変化とバイオビジネス経営の変化を分析するための実証・調査方法を修得する。	

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

バイオビジネス経営学総論への招待(バイオビジネス4収録)/門間敏幸/家の光協会(2005)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

ドラッカー/マネジメント上・下/ダイヤモンド社(1997)

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

授業への積極的な参加度とレポートで評価する。

◆その他受講上の注意事項

教員から教わるのではなくて、自ら理論を創造するという態度で授業に参加して欲しい。